
ある冬の朝

魅浪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある冬の朝

【Nコード】

N6862U

【作者名】

魅浪

【あらすじ】

一人の女の子が、<幸せの国>に向かって走ります。
もう1作ありますが、リンクしてます。

幸せの国へ

ある冬の朝

外には雪がちらちらと降っています。

雪はゆっくり積もってゆきます。

サクサクサク。サクサクサク。

一人の女の子が走ります。雪の中を走ります。

冷たい空気を吸いながら。

冷たい冷たい空気を吸いながら、雪の中を走ります。

サクサクサクサク走ります。

走るその先には何にもありません。

ただ単に走ります。

女の子の体温はどんどん奪われていきます。

女の子はそれに負けない様に必死に走ります。

サクサクサクサクサクサクサクサクサクサクサクサク。

やがて雪は止みました。女の子は体に積もった雪をパンパンと払うと、

「もっともつと走らなきゃ。幸せの国に着くまでは。」

女の子は言いました。

そしてまた走ります。

サクサクサクサクパシャパシャ。

雪は少し溶けました。だんだん暖かくなってきました。

幸せの国まであともう少し。

女の子は走ります。

サクサクサクサクパシャパシャ走ります。

幸せの国へ（後書き）

初投稿です！！

こんな未熟小説ですがよろしくです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6862u/>

ある冬の朝

2011年10月9日09時04分発行